

栗原圏域

(栗原市)

豊かな自然や歴史、文化を活かした、くりはら田園観光都市の実現

栗原圏域について

- 栗原圏域は宮城県の北西部に位置し、西部に栗駒国定公園の中心である栗駒山がそびえ、東部にはラムサール条約湿地の伊豆沼・内沼が広がり、北部は岩手県と接している。
- 平成17年に旧栗原郡の9町1村の広域合併により誕生した栗原市をその区域とし、面積は804.97㎏で県全体の約11%、人口は64,637人（令和2年国勢調査）で県全体の約3%を占めている。
- 栗駒山、伊豆沼・内沼などの豊かな自然資源や旧奥州街道など歴史的文化遺産、細倉鉱山関連施設の近代化産業遺産、日本ジオパーク認定を受けた栗駒山麓ジオパークの取組などを結びつけた観光ルートの構築等により「くりはら田園観光都市」の実現を目指している。

圏域の観光の現状

- 観光客入込数は、岩手・宮城内陸地震と東日本大震災により大きく落ち込み、その後、令和元年には約190万人と岩手・宮城内陸地震前の水準に回復していたが、令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響等により、約136万人（対前年比約72%）と大きく減少した。
- 栗駒山や伊豆沼・内沼など、観光資源に恵まれているものの、観光客は「栗駒山の紅葉」や「伊豆沼・内沼のはす」など特定の時期に集中する傾向がある。また、「自然観賞型」観光が中心なことや、二次交通の不足による「通過型観光」等が影響し、消費活動に結びつきにくい状況にある。

圏域の観光の課題

- ウィズ・ポストコロナを見据えた「地域全体の安全・安心」の確保のため、関連産業間の協調が重要である。
- 観光関連産業は裾野の広い総合産業であることから、地域住民が気づかずにいた地元の観光資源の再認識や、それらをさらに磨き上げる「きっかけ」づくりなどを通じて、利益を生み出し、地域経済に好循環をもたらす効果が求められている。
- 観光施設等を巡る周遊型観光や、体験プログラム等を楽しむ「滞在型観光」の推進及び、地元との交流等によるリピーター等関係人口の拡大に向けた取組が求められている。

圏域の施策の方向性及び取組**<計画期間で対応が必要な取組>**

- 人材育成及び関係人口の拡大
 - ・ふるさと教育やシビックプライドの醸成等による人材育成
 - ・農泊の推進や大学ゼミ合宿等誘致の取組等による関係人口の拡大
- 地域経済に好循環をもたらす「滞在型観光」の推進と情報発信
 - ・豊富な体験プログラムや体験学習等による「滞在型観光」の推進
 - ・SNSやYouTube等の動画サイトを活用した情報発信による訴求力の強化

<中長期的な対応が必要な取組>

- サステイナブルツーリズム（持続可能な観光）の推進に向けた体制の確立
 - ・行政、観光関連事業者に加え、地域が連携・協力した持続可能な推進体制の確立
- 魅力ある広域観光ルートの構築
 - ・旅行者ニーズを的確に捉えた、観光資源の発掘・資源の磨き上げと広域観光ルートの構築

栗駒山
(栗原市)伊豆沼・内沼
(栗原市)くりはら田園鉄道公園
(栗原市)

